

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江北町2-5 (電話) 096-364-8500																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																	
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度													
文化・教養		文化教養専門課程		グラフィックデザイン科 (広告デザイン専攻コース)		平成 7(1995)年度		-		平成28(2016)年度													
学科の目的		グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																					
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定、文部科学省後援 色彩検定が取得可能。																					
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技														
2 年		昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,920 単位時間 単位	160 単位時間 単位	1,760 単位時間 単位	- 単位時間 単位	- 単位時間 単位	- 単位時間 単位														
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																	
140 人		127 人の内数		0 人		0 %																	
就職等の状況		■卒業者数(C) : 18 人																					
		■就職希望者数(D) : 18 人																					
		■就職者数(E) : 17 人																					
		■地元就職者数(F) : 14 人																					
		■就職率(E/D) : 94 %																					
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 78 %																					
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 94 %																					
		■進学者数 : 0 人																					
		■その他																					
		(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)																					
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載																					
		無																					
当該学科のホームページURL		https://www.kumamoto-design.ac.jp																					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)																					
		<table><tr><td>総授業時数</td><td>1,920 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr></table>										総授業時数	1,920 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	84 単位時間	うち必修授業時数	84 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	84 単位時間
総授業時数	1,920 単位時間																						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																						
うち企業等と連携した演習の授業時数	84 単位時間																						
うち必修授業時数	84 単位時間																						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	84 単位時間																						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																						
		(B: 単位数による算定)																					
		<table><tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr></table>										総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
総授業時数	単位																						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																						
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																						
うち必修授業時数	単位																						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																						
教員の属性(専任教員について記入)		<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td>6 人</td></tr></table>										① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	6 人
		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																				
		② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																				
		③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																				
		④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																				
		⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																				
		計	6 人																				
<table><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>3 人</td></tr></table>										上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	3 人												
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	3 人																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
宮崎 和子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月1日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月14日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等： デジタルハリウッド
期間：	令和4年8月25日（木）13時～26日（金）13時	対象： 専門学校教職員等
内容	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名：	第30回広告セミナー	連携企業等： 株式会社進研アド
期間：	令和4年9月21日（水） 14:30～16:00	対象： 専門学校教職員等
内容	「別解が生まれた瞬間」講師：山崎 博司氏	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等： 株式会社進研アド
期間：	令和4年7月20日（木）16時～17時	対象： 専門学校教職員等
内容	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名：	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等： 株式会社進研アド
期間：	令和4年9月15日（木）16時～17時	対象： 専門学校教職員等
内容	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	
研修名：	専修学校フォーラム2023	連携企業等： 全国専門学校情報教育協会
期間：	令和5年2月21日（火）13時30分～16時30分	対象： 専門学校教職員等
内容	【教育のICT 化】DX、メタバース、AI 等 ICTの教育への展開	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Creative CloudのAI(人工知能)技術から読み解ける活用 法	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月2日(水)12:00～13:00	対象:	専門学校教職員等
内容:	デザイナー向けに、AI技術の基礎知識、これから実装されようとしている機能の歴史やアプローチを通して解説		
研修名:	ア دبيと生成AI	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月29日(火)13:00	対象:	専門学校教職員等
内容:	Adobeに20年近く在籍している講師よりAdobeの考える生成AIと最先端デザインアプリの'今'についての講演。		
研修名:	第31回広告セミナー	連携企業等:	株式会社 電通九州
期間:	令和5年9月26日(火)15:00～16:30	対象:	専門学校教職員等
内容:	「地方におけるクリエイティブの発想」佐賀競馬場PV「うまてなし」を事例 米村拓也 氏		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象:	専門学校教職員等
内容:	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例		
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	志望意欲を高める育成型広報		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 悠紀	在校生保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グラフィックデザイン科Ⅱ広告デザイン専攻コース)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1後	45			○		○			○	
2	○			アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想法を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1前	15		○			○		○		
3	○			ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1後	15		○			○			○	
4	○			タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1通	75			○		○		○		
5	○			写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1通	75			○		○			○	
6	○			ドローイング	形のととり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつながる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1通	90			○		○			○	
7	○			知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1後	15		△	○		○			○	
8	○			造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1前	15			○		○		○		
9	○			社会人基礎	どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える（知る→考える→伝える）という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1後	15		○			○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使用されている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 前	15		○			○		○		
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトマーケティングからカンプの表現手法までを指導する。	1 通	75			○			○			○
12	○		現代デザイン 史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 前	15		○				○		○	
13	○		ホームページ 基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	90			○				○		○
14	○		ビジネスマ ナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 前	30		○					○		○
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 通	75			○				○		○
16	○		ベーシックデ ザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 通	75			○				○		○
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 後	15		○					○		○
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 後	195			○					○	○
19	○		総合デザイン 論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 前	15		○					○		○

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 前	15		○		○		○					
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネージメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 前	45		○		○				○			
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 通	60		○		○			○				
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 通	60		○		○			○				
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 通	60		○		○					○		
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 通	60		○		○			○				
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 通	60		○		○					○		
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 通	45		○		○			○				
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 後	375		○		○			○				
29		○	Webデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した経験のある教員がその経験を生かしてPHPフレームワークのWordPressを使用し、ウェブサイトを実制作しながらSEO、ウェブデザイン、コーディング（HTML、CSS、PHP）を指導する。	2 通	60		○		○			○				

30		○	コーディング 演習	Webデザイン制作会社でWebデザイナーとして勤務実績のある教員が指導にあたる。スマートフォンに特化したデザインを制御・構築するためのJavaScript（jQueryライブラリ）の理解を深める演習を行う。	2 通	60			○		○		○		
31		○	映像基礎	映像編集に携わった教員が、映像を撮影するためのカメラワークの操作方法とワークステーションの中で編集作業を行う映像制作の基本の工程をを指導し、実制作を交え	2 通	60			○		○		○		
合計				31 科目				1920 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程		グラフィックデザイン科 (雑誌編集(エディター)専攻 コース)		平成 7(1995)年度		-		平成28(2016)年度
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対应的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定、文部科学省後援 色彩検定が取得可能。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,920 単位時間	160 単位時間	1,760 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
140 人	127 人の内数		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 0 人								
	■就職希望者数(D) : 0 人								
	■就職者数(E) : 0 人								
	■地元就職者数(F) : 0 人								
	■就職率(E/D) : 0 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 0 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 0 %								
	■進学者数 : 0 人								
	■その他								
(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載した ホームページURL								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(B : 単位数による算定)								
	総授業時数					単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位			
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位			
	うち必修授業時数					単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人			
	計					6 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
宮崎 和子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月1日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月14日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等:	デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時～26日(金)13時	対象:	専門学校教職員等
内容	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修		
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30～16:00	対象:	専門学校教職員等
内容	「別解が生まれた瞬間」講師:山崎 博司氏		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。		
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。		
研修名:	専修学校フォーラム2023	連携企業等:	全国専門学校情報教育協会
期間:	令和5年2月21日(火)13時30分～16時30分	対象:	専門学校教職員等
内容	【教育のICT 化】DX、メタバース、AI 等 ICTの教育への展開		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Creative CloudのAI(人工知能)技術から読み解ける活用 法	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月2日(水)12:00～13:00	対象:	専門学校教職員等
内容	デザイナー向けに、AI技術の基礎知識、これから実装されようとしている機能の歴史やアプローチを通して解説。		
研修名:	ア دبيと生成AI	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月29日(火)13:00	対象:	専門学校教職員等
内容	Adobeに20年近く在籍している講師よりAdobeの考える生成AIと最先端デザインアプリの'今'についての講演。		
研修名:	第31回広告セミナー	連携企業等:	株式会社 電通九州
期間:	令和5年9月26日(火)15:00～16:30	対象:	専門学校教職員等
内容	「地方におけるクリエイティブの発想」佐賀競馬場PV「うまてなし」を事例 米村拓也 氏		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象:	専門学校教職員等
内容	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例		
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	志望意欲を高める育成型広報		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 悠紀	在校生保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グラフィックデザイン科Ⅱ雑誌編集(エディター)専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		兼任	
1	○			セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1後	45			○		○				○
2	○			アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1前	15		○			○		○		
3	○			ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1後	15		○			○				○
4	○			タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1通	75			○		○		○		
5	○			写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1通	75			○		○				○
6	○			ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1通	90			○		○				○
7	○			知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1後	15		△	○		○				○
8	○			造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1前	15			○		○		○		

9	○		社会人基礎	どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える（知る→考える→伝える）という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 後	15		○		○		○	
10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使用されている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 前	15		○		○		○	
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトメーキングからカンプの表現手法までを指導する。	1 通	75			○		○		○
12	○		現代デザイン史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 前	15		○		○		○	
13	○		ホームページ基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	90			○		○		○
15	○		DTP基礎	Macintoshを用いてIllustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 通	75			○		○		○
16	○		ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 通	75			○		○		○
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やアポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 後	15		○		○		○	
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 後	195			○		○		○
19	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 前	15		○		○		○	

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 前	15		○		○		○					
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 前	45			○		○					○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 通	60			○		○		○				
23	○		DTP演習	Macintoshを用いてIllustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 通	60			○		○		○				
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 通	60			○		○					○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 通	60			○		○		○				
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 通	60			○		○					○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 通	45			○		○		○				
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 後	375			○		○		○				
29		○	編集企画	出版社で編集長として勤務した教員がその経験を生かして雑誌紙面の企画を作るにあたって文章の表現力をまず身に付け、魅力ある紙面づくりはどのように企画されるのか指導する。	2 通	60			○		○					○	

30	○	広告写真	広告業界で広告写真に携わった経験を持つ教員がその経験を生かして広告媒体における写真撮影方法と関連する機材の操作及び設定法の基本を指導し、広告業界におけるフォトグラファーズの撮影技術を理解する。	2 通	60		○	○	○
31	○	エディトリアルデザイン□	雑誌表紙デザイン、オリジナルロゴタイプデザイン、雑誌見開きデザイン、コラム、CDジャケットデザインなど印刷媒体のデザインを通じて実践的なレイアウト方法を学習する。その後、高校生を対象とした印刷物を企画立案、取材、印刷入稿までを実施し履修した学びの確認を行う。	2 通	60		○	○	○
合計			31 科目			1920 単位（単位時間）			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	グラフィックデザイン科 (イラストレーション専攻コース)		平成 7(1995)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的								
グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)								
文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定、文部科学省後援 色彩検定が取得可能。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,920 単位時間	160 単位時間	1,760 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
140 人	127 人の内数	0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		10	人				
	■就職希望者数(D)		10	人				
	■就職者数(E)		10	人				
	■地元就職者数(F)		10	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先・業界等 (令和5年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
	評価団体:			受審年月:				
				評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.kumamoto-design.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,920 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		84 単位時間					
	うち必修授業時数		84 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		84 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数		単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
	うち必修授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計		6 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
宮崎 和子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月1日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月14日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時～26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30～16:00	対象: 専門学校教職員等
内容	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	
研修名:	専修学校フォーラム2023	連携企業等: 全国専門学校情報教育協会
期間:	令和5年2月21日(火)13時30分～16時30分	対象: 専門学校教職員等
内容	【教育のICT 化】DX、メタバース、AI 等 ICTの教育への展開	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Creative CloudのAI(人工知能)技術から読み解ける活用 法	連携企業等: Adobe株式会社
期間:	令和5年8月2日(水)12:00～13:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	デザイナー向けに、AI技術の基礎知識、これから実装されようとしている機能の歴史やアプローチを通して解説。	
研修名:	アドビと生成AI	連携企業等: Adobe株式会社
期間:	令和5年8月29日(火)13:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	Adobeに20年近く在籍している講師よりAdobeの考える生成AIと最先端デザインアプリの'今'についての講演。	
研修名:	第31回広告セミナー	連携企業等: 株式会社 電通九州
期間:	令和5年9月26日(火)15:00～16:30	対象: 専門学校教職員等
内容:	「地方におけるクリエイティブの発想」佐賀競馬場PV「うまてなし」を事例 米村拓也 氏	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等: 株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象: 専門学校教職員等
内容:	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例	
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	志望意欲を高める育成型広報	
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等: ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 悠紀	在校生保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グラフィックデザイン科□イラストレーション専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1後	45			○		○			○	
2	○			アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1前	15		○			○		○		
3	○			ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1後	15		○			○			○	
4	○			タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1通	75			○		○		○		
5	○			写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1通	75			○		○			○	
6	○			ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1通	90			○		○			○	
7	○			知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1後	15		△	○		○			○	
8	○			造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1前	15			○		○		○		
9	○			社会人基礎	どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える（知る→考える→伝える）という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1後	15		○			○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使用されている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 前	15		○			○		○		
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトマーケティングからカンプの表現手法までを指導する。	1 通	75			○			○			○
12	○		現代デザイン 史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 前	15		○				○		○	
13	○		ホームページ 基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	90			○			○		○	
14	○		ビジネスマ ナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 前	30		○				○			○
15	○		DTP基礎	Macintoshを用いてIllustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 通	75			○			○		○	
16	○		ベーシックデ ザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 通	75			○			○		○	
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やアポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 後	15		○				○		○	
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 後	195			○			○		○	
19	○		総合デザイン 論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 前	15		○				○			○

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 前	15		○		○		○					
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネージメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 前	45		○		○						○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 通	60		○		○		○					
23	○		DTP演習	Macintoshを用いてIllustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 通	60		○		○		○					
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 通	60		○		○						○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 通	60		○		○		○					
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 通	60		○		○		○				○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 通	45		○		○		○					
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 後	375		○		○		○					
29		○	オリジナルイラスト	様々なモチーフでイラストを描くことで技術やテイスト（作風）の幅を広げていく、また仕事として想定されるイラストマップ、キャラクターデザイン、立体物にプリントされる場合などで実習する。	2 通	120		○		○						○	

30	○	テクニカルイラスト	出版業界、印刷業界でイラストレーターとして実績を積んできた教員が指導する。絵を描く上で大切な資料収集や作品のモチーフについての研究することでイラストレーションがどのように社会に関りを持ち貢献していくのか考察し、作品制作についてはコンペで発表し、鑑賞、批評することでオリジナリティを高めていくことを学習する。	2 通	60	○	○	○
合計			30 科目	1920 単位（単位時間）				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・ 出席率が80%以上であること ・ 当該年次の科目全てに合格すること ・ 卒業制作または卒業研究に合格すること ・ 当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																
文化・教養	文化教養専門課程		グラフィックデザイン科 (マンガ・キャラクター専攻コース)		平成 7(1995)年度		-		平成28(2016)年度																
学科の目的		グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定、文部科学省後援 色彩検定が取得可能。																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入			1,920 単位時間	160 単位時間	1,760 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間															
					単位	単位	単位	単位	単位	単位															
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																			
140 人		127 人の内数		0 人		0 %																			
就職等の状況		■卒業者数(C) : 14 人																							
		■就職希望者数(D) : 9 人																							
		■就職者数(E) : 9 人																							
		■地元就職者数(F) : 8 人																							
		■就職率(E/D) : 100 %																							
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 89 %																							
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 64 %																							
		■進学者数 : 0 人																							
		■その他																							
		(令和 4 年度卒業者にに関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)																							
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載																							
		無																							
当該学科の ホームページ URL		https://www.kumamoto-design.ac.jp																							
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに 記入)		(A : 単位時間による算定)																							
		<table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td>1,920 単位時間</td></tr><tr><td rowspan="5">うち企業等と連携した</td><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr></table>									総授業時数		1,920 単位時間	うち企業等と連携した	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	84 単位時間	うち必修授業時数	84 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	84 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)
総授業時数		1,920 単位時間																							
うち企業等と連携した	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																							
	うち企業等と連携した演習の授業時数	84 単位時間																							
	うち必修授業時数	84 単位時間																							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	84 単位時間																							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間																							
		(B : 単位数による算定)																							
		<table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td rowspan="5">うち企業等と連携した</td><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr></table>									総授業時数		単位	うち企業等と連携した	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)
総授業時数		単位																							
うち企業等と連携した	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																							
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																							
	うち必修授業時数	単位																							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位																							
教員の属性(専任 教員について記 入)		<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td>6 人</td></tr></table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	6 人			
		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																						
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																						
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																						
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																						
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																						
		計	6 人																						
<table><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>3 人</td></tr></table>									上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	3 人															
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	3 人																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
宮崎 和子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月1日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月14日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時～26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30～16:00	対象: 専門学校教職員等
内容	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	
研修名:	専修学校フォーラム2023	連携企業等: 全国専門学校情報教育協会
期間:	令和5年2月21日(火)13時30分～16時30分	対象: 専門学校教職員等
内容	【教育のICT 化】DX、メタバース、AI 等 ICTの教育への展開	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Creative CloudのAI(人工知能)技術から読み解ける活用 法	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月2日(水)12:00～13:00	対象:	専門学校教職員等
内容	デザイナー向けに、AI技術の基礎知識、これから実装されようとしている機能の歴史やアプローチを通して解説。		
研修名:	アドビと生成AI	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月29日(火)13:00	対象:	専門学校教職員等
内容	Adobeに20年近く在籍している講師よりAdobeの考える生成AIと最先端デザインアプリの'今'についての講演。		
研修名:	第31回広告セミナー	連携企業等:	株式会社 電通九州
期間:	令和5年9月26日(火)15:00～16:30	対象:	専門学校教職員等
内容	「地方におけるクリエイティブの発想」佐賀競馬場PV「うまてなし」を事例 米村拓也 氏		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象:	専門学校教職員等
内容	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例		
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	志望意欲を高める育成型広報		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 悠紀	在校生保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グラフィックデザイン科マンガ・キャラクター専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1後	45			○		○			○	
2	○			アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1前	15		○			○		○		
3	○			ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1後	15		○			○			○	
4	○			タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1通	75			○		○		○		
5	○			写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1通	75			○		○			○	
6	○			ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつながる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1通	90			○		○			○	
7	○			知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1後	15		△	○		○			○	
8	○			造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1前	15			○		○		○		
9	○			社会人基礎	どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える（知る→考える→伝える）という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1後	15		○			○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使われている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 前	15		○			○		○		
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトマーケティングからカンプの表現手法までを指導する。	1 通	75			○			○			○
12	○		現代デザイン 史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 前	15		○				○		○	
13	○		ホームページ 基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	90			○			○		○	
14	○		ビ ジ ネ ス マ ナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 前	30		○				○			○
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 通	75			○			○		○	
16	○		ベーシックデ ザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 通	75			○			○		○	
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やアポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 後	15		○				○		○	
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 後	195			○			○		○	
19	○		総合デザイン 論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 前	15		○				○			○

20		○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2前	15		○		○		○						
21		○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネージメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2前	45			○		○							○
22		○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2通	60			○		○						○	
23		○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator 、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術、校正を繰り返しながら習熟する。	2通	60			○		○						○	
24		○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2通	60			○		○						○	
25		○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2通	60			○		○						○	
26		○		We b 演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2通	60			○		○						○	
27		○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2通	45			○		○						○	
28		○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2後	375			○		○						○	
29			○	キャラクター演習	マンガ制作及び、広くキャラクター制作に役に立つ発想法、ストーリーを俯瞰する視点で全体を把握しながらキャラクターの人格形成を考える手法を理解する。	2通	60			○		○						○	
30			○	マンガ演習	週刊漫画雑誌で連載を経験した教員が、マンガ制作の基本の４コマ漫画を制作することでコマ割りの効果的な表現方法や制作技術を指導する。	2通	120			○		○						○	

合計	30 科目	1920 単位（単位時間）
----	-------	---------------

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・ 出席率が80%以上であること ・ 当該年次の科目全てに合格すること ・ 卒業制作または卒業研究に合格すること ・ 当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化教養専門課程		グラフィックデザイン科 (雑貨・パッケージデザイン専攻コース)		平成 7(1995)年度		-		平成28(2016)年度	
学科の目的		グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対する確かなイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定、文部科学省後援 色彩検定が取得可能。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,920 単位時間	160 単位時間	1,760 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
140 人		127 人の内数		0 人		0 %				
就職等の状況		■卒業者数(C)		13 人						
		■就職希望者数(D)		13 人						
		■就職者数(E)		13 人						
		■地元就職者数(F)		11 人						
		■就職率(E/D)		100 %						
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		85 %						
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
		■進学者数		0 人						
		■その他								
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL		https://www.kumamoto-design.ac.jp								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)								
		総授業時数					1,920 単位時間			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間			
		うち企業等と連携した演習の授業時数					84 単位時間			
		うち必修授業時数					84 単位時間			
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間			
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					84 単位時間			
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間			
		(B: 単位数による算定)								
		総授業時数					単位			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位			
		うち企業等と連携した演習の授業時数					単位			
		うち必修授業時数					単位			
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位			
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位			
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位			
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3 人			
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					3 人			
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人			
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人			
		計					6 人			
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
宮崎 和子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月1日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月14日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っている。	株式会社フィールドワークス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時～26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30～16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	
研修名:	専修学校フォーラム2023	連携企業等: 全国専門学校情報教育協会
期間:	令和5年2月21日(火)13時30分～16時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	【教育のICT化】DX、メタバース、AI等ICTの教育への展開	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Creative CloudのAI(人工知能)技術から読み解ける活用 法	連携企業等: Adobe株式会社
期間:	令和5年8月2日(水)12:00～13:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	デザイナー向けに、AI技術の基礎知識、これから実装されようとしている機能の歴史やアプローチを通して解説。	
研修名:	アドビと生成AI	連携企業等: Adobe株式会社
期間:	令和5年8月29日(火)13:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	Adobeに20年近く在籍している講師よりAdobeの考える生成AIと最先端デザインアプリの'今'についての講演。	
研修名:	第31回広告セミナー	連携企業等: 株式会社 電通九州
期間:	令和5年9月26日(火)15:00～16:30	対象: 専門学校教職員等
内容:	「地方におけるクリエイティブの発想」佐賀競馬場PV「うまてなし」を事例 米村拓也 氏	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等: 株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象: 専門学校教職員等
内容:	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例	
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	志望意欲を高める育成型広報	
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等: ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 悠紀	在校生保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グラフィックデザイン科□雑貨・パッケージデザイン専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1後	45			○		○			○	
2	○			アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想法を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1前	15		○			○		○		
3	○			ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1後	15		○			○			○	
4	○			タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1通	75			○		○		○		
5	○			写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1通	75			○		○			○	
6	○			ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1通	90			○		○			○	
7	○			知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1後	15		△	○		○			○	
8	○			造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1前	15			○		○		○		
9	○			社会人基礎	どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える（知る→考える→伝える）という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1後	15		○			○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使われている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 前	15		○		○		○		
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトマーケティングからカンプの表現手法までを指導する。	1 通	75		○		○			○	
12	○		現代デザイン 史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 前	15		○		○		○		
13	○		ホームページ 基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	90		○		○		○		
14	○		ビジネスマ ナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 前	30		○		○			○	
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 通	75		○		○		○		
16	○		ベーシックデ ザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 通	75		○		○		○		
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やアポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 後	15		○		○		○		
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 後	195		○		○		○		
19	○		総合デザイン 論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 前	15		○		○			○	

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 前	15		○		○		○			
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネージメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 前	45		○		○				○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 通	60		○		○		○			
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 通	60		○		○		○			
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 通	60		○		○				○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 通	60		○		○		○			
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 通	60		○		○				○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 通	45		○		○		○			
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 後	375		○		○		○			
29		○	パッケージデザイン	平面を山折り谷折りすることで、立体を形成することを理解し、紙の質感、厚み、色の違いからデザイン制作の仕上がりの違いを理解する。パッケージと雑貨が必要とされるシーンをリアルに浮き上がらせ、デザインに定着させる能力を身につける。	2 通	60		○		○		○			

30		○		デザインプランニング	前期は各パッケージの構造をダミー制作を通じて理解し、中期は、デザインを美しく見せる文字組みの基本や、論理的思考を磨く訓練を行う。また、実際の現場に近いプロセスでデザイン展開を身につける力を養うとともに卒業後、しなやかな感性を活かし過ごしていくための発想や、自立した社会人になるための考え方などを育成する。	2 通	60			○		○			○	
31		○		デザイン書道	パッケージデザインにおいてニーズの高いデザイン書道の基礎的な知識と技術を数多くの表現方法と実践課題を通して修得する。デジタル表現にない線の抑揚、自作の	2 通	60			○		○			○	
合計						31	科目	1920 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・ 出席率が80%以上であること ・ 当該年次の科目全てに合格すること ・ 卒業制作または卒業研究に合格すること ・ 当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江北町2-5 (電話) 096-364-8500		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	グラフィックデザイン科 (写真デザイン専攻コース)		平成 7(1995)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定、文部科学省後援 色彩検定が取得可能。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,920 単位時間	160 単位時間	1,760 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
140 人	127 人の内数	0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		7 人					
	■就職希望者数(D)		6 人					
	■就職者数(E)		6 人					
	■地元就職者数(F)		4 人					
	■就職率(E/D)		86 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		67 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/G)		86 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL			無				
当該学科のホームページURL	https://www.kumamoto-design.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				1,920 単位時間			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
うち企業等と連携した演習の授業時数				84 単位時間				
うち必修授業時数				84 単位時間				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				84 単位時間				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
(B: 単位数による算定)								
総授業時数				単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
うち必修授業時数				単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				3 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				6 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
宮崎 和子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月1日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月14日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等：デジタルハリウッド
期間：	令和4年8月25日（木）13時～26日（金）13時	対象：専門学校教職員等
内容	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名：	第30回広告セミナー	連携企業等：株式会社進研アド
期間：	令和4年9月21日（水）14:30～16:00	対象：専門学校教職員等
内容	「別解が生まれた瞬間」講師：山崎 博司氏	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等：株式会社進研アド
期間：	令和4年7月20日（木）16時～17時	対象：専門学校教職員等
内容	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名：	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等：株式会社進研アド
期間：	令和4年9月15日（木）16時～17時	対象：専門学校教職員等
内容	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	
研修名：	専修学校フォーラム2023	連携企業等：全国専門学校情報教育協会
期間：	令和5年2月21日（火）13時30分～16時30分	対象：専門学校教職員等
内容	【教育のICT化】DX、メタバース、AI等ICTの教育への展開	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Creative CloudのAI(人工知能)技術から読み解ける活用 法	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月2日(水)12:00～13:00	対象:	専門学校教職員等
内容	デザイナー向けに、AI技術の基礎知識、これから実装されようとしている機能の歴史やアプローチを通して解説。		
研修名:	アドビと生成AI	連携企業等:	Adobe株式会社
期間:	令和5年8月29日(火)13:00	対象:	専門学校教職員等
内容	Adobeに20年近く在籍している講師よりAdobeの考える生成AIと最先端デザインアプリの'今'についての講演。		
研修名:	第31回広告セミナー	連携企業等:	株式会社 電通九州
期間:	令和5年9月26日(火)15:00～16:30	対象:	専門学校教職員等
内容	「地方におけるクリエイティブの発想」佐賀競馬場PV「うまてなし」を事例 米村拓也 氏		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象:	専門学校教職員等
内容	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例		
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	志望意欲を高める育成型広報		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 悠紀	在校生保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グラフィックデザイン科口写真デザイン専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1後	45			○		○			○	
2	○			アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1前	15		○			○		○		
3	○			ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1後	15		○			○			○	
4	○			タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1通	75			○		○		○		
5	○			写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1通	75			○		○			○	
6	○			ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつながる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1通	90			○		○			○	
7	○			知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1後	15		△	○		○			○	
8	○			造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1前	15			○		○		○		
9	○			社会人基礎	どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える（知る→考える→伝える）という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1後	15		○			○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使われている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 前	15		○			○		○		
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトマーケティングからカンプの表現手法までを指導する。	1 通	75			○			○			○
12	○		現代デザイン 史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 前	15		○				○		○	
13	○		ホームページ 基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	90			○			○		○	
14	○		ビ ジ ネ ス マ ナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 前	30		○				○			○
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 通	75			○			○		○	
16	○		ベーシックデ ザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 通	75			○			○		○	
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やアポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 後	15		○				○		○	
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 後	195			○			○		○	
19	○		総合デザイン 論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 前	15		○				○			○

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 前	15		○		○		○	
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネージメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 前	45			○		○		○
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 通	60			○		○		○
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 通	60			○		○		○
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 通	60			○		○		○
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 通	60			○		○		○
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 通	60			○		○		○
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 通	45			○		○		○
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 後	375			○		○		○
29	○		写真表現学	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員がその経験を生かして写真表現のツールになる撮影技術を身につけながら、独自の作家性を養い写真家としての作品制作の進め方や展示方法等を指導する。	2 通	60			○		○		○

30		○	広告写真	広告業界で広告写真に携わった経験を持つ教員がその経験を生かして広告媒体における写真撮影方法と関連する機材の操作及び設定法の基本を指導し、広告業界におけるフォトグラファーの撮影技術を理解する。	2 通	60			○		○			○	
31		○	映像基礎	映像編集に携わった教員が、映像を撮影するためのカメラワークの操作方法とワークステーションの中で編集作業を行う映像制作の基本の工程をを指導し、実制作を交え	2 通	60			○		○		○		
合計				31 科目			1920 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・ 出席率が80%以上であること ・ 当該年次の科目全てに合格すること ・ 卒業制作または卒業研究に合格すること ・ 当該年次の授業料等諸経費が完納されていること		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。